

ばってん

事務長会報第40号

平成 28 年 10 月 1 日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立鳴滝高等学校内

〒850-0011
長崎市鳴滝一丁目4番1号
電話 (095)820-0056



ホテル **もんくろ** 長崎

TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

「東京雑感」と「邯鄲の夢」

副会長（長崎鶴洋高等学校）田渕 伸夫

周知のとおり、何の知識も技能も無い私であるが、唯一特殊な経歴として、東京霞が関の文部科学省及び文化庁への異動経験がある。今回は、私が東京で勤務した際の体験談を少々お話ししたいと思う。

私は世田谷区に所在する長崎県職員公舎に入居させていただき、駅まで徒歩10分、京王線で新宿駅まで25分、新宿駅から東京メトロ丸ノ内線で霞ヶ関まで25分の片道ほぼ1時間、東京では平均的な通勤時間であった。ご想像どおり超満員の通勤電車であり、手を離しても鞆は落ちない。痴漢扱いされないよう必死である。また、東京の人達は歩く速度が異常に早く、女性にも次々抜かれる。特に通勤時間帯の駅構内では流れを妨げてはいけないなど結構大変である。

次に、我々県職員と霞が関職員との間で最も異なるのが勤務時間帯である。数年前に問題になって今は多少改善されていると思うが、当時は退庁時間が平均して夜10時～11時であった。まだ職場に慣れない頃、今日は懇親会があると聞いていたのに、皆さん一向に退庁しない。通常どおり11時頃まで勤務し、今日はないのかと思っていたところ、「それでは午前1時に〇〇に集合してください。」との声が…。耳を疑った。それから5時頃まで飲んで帰る。当然、朝9時には誰も来ない（これは毎日のこと）。慣れた頃には私が9時には来て課の鍵を開けていたが、国は基本的に朝が遅いのである。ちなみに、その後私もすぐに、夜何時集合でも驚かなくなった。

議会対応について。都道府県の三ヶ月毎の定例議会と異なり、通常国会は1月に召集され、会期は法定150日であるため6月までかかる。つまり半年間はずっと議会対応をしていることになり、勤務時間帯が遅くなるはずである。本県でも議会中はその対応で帰りが遅くなるが、半年間ずっとということはない。また、国会が終われば夏の概算要求があり、年末には財務省原案内示・復活折衝である。特に年末は、国立の大学病院から簡易ベッドを多数借りて持ち込み、泊り込みが前提となる。皆さん喜々として準備しており、その積極性に私は感心したものである。

霞が関の職員には無論キャリアも多いが、高卒の方や女性職員も多い。出身等に関わらず、皆さん親切で、給与も当然我々と同様であるのに職務にも真摯に取り組み、飲み会やレクリエーションも積極的である。様々な事を学び知己も増え、その結果、私の東京での勤務は、忘れられない経験となったのである。

紙幅の関係で残念ながらここまでで済ませたいが、他にも紹介したい話は山ほどある。ただ、私達も同様に行政職でありながら、職務内容がこれだけ異なる世界があることはぜひ認識していただきたいと思い紹介した。

さて、最後に私事になるが、私も定年まで残り数年となった。ここへ来て、これまでの諸先輩方や同僚等に恵まれた尊い時間は、正に「邯鄲（かんたん）の夢」ではないかと感じる時がある。

（邯鄲とは、中国の戦国時代の趙の旧都の名である。唐の時代、一人の貧しい若者が邯鄲の街の旅籠で、ある道士から不思議な枕を借りて一眠りしたところ、紆余曲折を経て幸せな一生を終えるという体験をした。しかし、実際には旅籠の主人が作っていた料理もまだ煮え切らないような、ごく短い間の夢に過ぎなかったという伝説である。）

退職後の予定などこれまで考えたことがなかったが、とりあえず今の段階でやりたい事と言えば、

- 1.これまでの勤務の中で、海外を含め、多くの場所に出張させていただいた。ただ、私事旅行等も含めても国内で訪れたことのない県がまだ数県残っている。まず、これらを制覇したい。
- 2.長崎鶴洋高校への通勤の際に、2日に一度は豪華客船を見ている（すごく大きいです）。一度はこれに乗って旅してみたい。上記1を兼ねて国内ツアーの参加でも検討しようかと思う。くらいしかないが、悔いの無い人生にしたいと考えている（写真は、三県共同実習船「海友丸」の模型です）。



ラストスパート

島原商業高等学校 高原 重光

世間ではインベーダーゲームが大流行し、初の国公立大学共通一次試験が実施された昭和54年に、母校である深江小学校(現在の南島原市深江町)から私の学校事務はスタートしました。深江町内で3校14年間勤務し、その間、普賢岳噴火災害にも遭遇しました。そして、採用から15年目、離島を希望し対馬へ。教育事務所で仕事づくめ、母子家庭同様の3年間を経て高校デビュー。島商、島農、島工と島原市内を巡回。特に、島農では7年間勤務し、農業実習会計も経験しました。また、生産物や生きものに携わる大変さや楽しさも体験できた。平成21年4月北朝鮮のミサイル発射予告の真っ直中、新任事務長として、再び国境の島「対馬(上対馬高校)」へ。初めての単身赴任生活を満喫?職員や地域住民と親交を深め、「しま」と「ひと」の素晴らしさを実感した3年間でした。今でも、定期的に「上対馬会」と称して、当時のメンバーで酒を酌み交わしています。真逆の島原工業高校へUターン異動、3年前

に見送ってくれた教職員の約3分の2の面々が出迎えてくれた。お互い、笑うしかない。1年目に創立50周年記念事業で奔走したことが懐かしい。

そして、昨年度から15年振りに現勤校の島原商業高校へ。初めての高校勤務が島商で最後の勤務も島商、これも何かの縁であろう。採用から38年間で10校勤務の集大成として、残り半年間ラストスパート。創立60周年記念体育大会・記念文化祭・記念式典(11月5日)の成功、さらに、予備監査・委員監査で指導・指摘がないよう無事に乗り切り、最後の〇〇・最後の卒業式・最後の終業式と共に私の学校事務38年間に終止符を打ちたいと考えています。

事務長として8年間、事務長会や多くの事務長さん方にお世話になりました。ますますのご発展とご活躍をご祈念申し上げます。



最後の学校(退職を迎えて)

長崎県立ろう学校 眞崎 勝郎

私は、今年度末をもって退職を迎えます。現在勤務している学校で10校目を数えます。校種も小学校・中学校・高校・特別支援学校と勤務してまいりました。長い学校事務職員として学校勤務の原点となったのは、新任地である現雲仙市小浜町の富津小学校であります。実に速い時の流れを感じます。

退職で最後の勤務校となる県立ろう学校は、明治31年に長崎市に盲学校とろう学校を併設した盲啞学院として開校以来今年度で118年を迎える歴史の長い学校であります。これまでは色々なエピソードや記録が残っていますが、特筆すべき出来事は、昭和12年にあのヘレンケラー女史が来校され月桂樹を手植えされたことではないでしょうか。後の昭和23年にも再度長崎を訪問されています。当時の交通手段を考えると随分と画期的なことだし無理をなされた訪問だったことが伺えます。

学校に残っている記録での幼児児童生徒数の変遷を見ると昭和6年81名、ピーク時の昭和38年473名、平成元年109名、平成28年で41名の



在籍数です。ピーク時と比較して10分の1の在籍数であります。医学・医療機器の進化等により聴覚障害が軽減され一般の学校での就学が可能になっての在籍数減に繋がっているのではないかと思います。

幼稚部の3才の幼児から高等部本科・高等部専攻科の20才の幼児児童生徒まで幅広い年齢に対応した教育がなされています。

高等部においては教育学科を理容科・総合デザイン科(セラミックコース、ライフデザインコース、インテリアコース)に分けて実社会に即したキャリア教育に取り組んでいます。分かりやすく言いますと、窯業での焼き物製作・木工製作・被服製作・理容実習といった内容の授業形態です。その生徒の実習作品には目を見張る作品もあることもご紹介しておきます。時に、「全国障害者技能競技大会」に出場する生徒もいます。そういったキャリア教育を受けた卒業生も延べ四千人を超え県内外、多方面で活躍されています。

このような県立ろう学校ですが、新幹線導入に伴う工事のために平成30年度には同じ大村市にある虹の原特別支援学校の隣に校舎移転いたします。敷地造成等工事も着工し、今現在移転のための事務手続きも粛々と進めているところであります。

現在在籍している幼児児童生徒の快適な学習環境と在職している教職員にとってのより良い労働環境、また卒業生にとっての拠り所としてあるべき最良の「ろう学校」を作り上げるべく平成30年度開校に向けて移転工事の細かなところの協議事項を進めながら残り少ない学校事務職員として「最後の学校」の業務に取り組み次の新たな「ろう学校」にバトンタッチしたいと思っています。

人工知能が学校事務職員になる日

川棚高等学校 山口 徹

スイスでは、この6月にある国民投票が行われた。投票を提案した人たちの主張は次のとおりである。一スイスの主たる産業は早晚人工知能(AI)に取って代わられる。もし、人間が従事し続けられれば、それらは非効率の産業となり、国際競争に負けてしまう。人間は働くことを止めて、生活費は国から一定額(ベーシックインカム)を受給することにしよう— 結果は77%の反対で否決されたが、オランダの一部やフィンランドでも同様の制度が検討されている。

ひるがえって日本ではAIに関する論議はほとんどなされていない。しかし、野村総合研究所などが昨年末に発表した予測では、日本やアメリカの場合、10~20年後に、人間がしている仕事の半

分をAIが代替することが可能になる。しかも、「代替可能性が高い職業」の中に「学校事務員」が挙げられている。(※1)

AIの開発は、テキストや画像、音声のデータから意味を認識するためのパターンやルールをコンピュータが自動的に見つけ出す「機械学習」によってすすめられてきたが、人間の脳の仕組みや信号処理を取り入れた「深層学習」の導入によって飛躍的な進歩を遂げる可能性がある段階に入った。一部の研究者が目指しているのは人間に可能な知的作業を一通りできる「汎用AI」だが、それができなくても一部の作業が出来る「特化型AI」(※2)は今後も次々と世の中に普及し、人間の仕事が減るのは必至だ。



とは言え、他の職種や生徒、保護者、業者とのコミュニケーションが必要な学校事務労働から人間が100%排除されるとは私には思えない。AIと協働しながら、人間は短時間勤務し、減額された給与とは別にベーシックインカムを国から受給して生活するというのが学校事務の未来像だろう。

今後、AIについては世界中で多くの議論が沸き起こり、一時的には混乱した時代が来そうだが、AIの開発動向や世間の反応を見

ながら、若い学校事務職員にこれからどのような研修をすべきか真剣に検討すべき時期が近づいてきたと思う。

※1:学校事務の業務全てを66%以上の確率で技術的にAIが代替できるとされている。

※2:ロボット掃除機「ルンバ」や最強棋士に勝った「アルファ碁」など。囲碁は1手目からの手順が10の360乗もあるため、アルファ碁はその全てを計算するのではなく、盤面のどこがポイントであるかを絞り込む「直観」を使って対戦している。

イキものの宝庫

壱岐商業高等学校 豆田 真澄

突然ですが、宣伝です。本校の情報メディア部の生徒がアイデアを作り上げ、壱岐市の観光連盟が企画した「いきいき合宿プラン」ができあがりました。

往復の船代、宿泊代、港までの送り迎え付きで、1万数千円のプランです。

スポーツ活動対応施設も豊富です。クラブの遠征先に困っている学校がありましたら、ぜひ、御一考を！

いろんな動物が皆さんを迎えてくれます。道路を横断する亀。電線を走る鼯。校舎のプレスに巣を作り続ける雀。

イルカ(イルカパーク)、メジロ(市の鳥)、壱岐牛(ここから先は食べるもの)、サザエ、マグロ、イカ、ウニ。

実り多き壱岐の幸を御堪能ください。

壱岐とは関係ありませんが、イキものつながりで、三連休を利用して、イヌ・サル・キジを従えた桃太郎のふるさどに行ってきました。その名も「桃太郎線」。岡山駅と総社駅を結ぶ吉備線の愛称で、次の駅に近づくと「ももたろうさん…」のメロディーが流れ

ます。これこそ「桃〇郎電鉄」。

そもそも何を見に行ったかという、秀吉の水攻めで有名な備中高松城跡と、余りに山奥なので、「日本のマチュピチュ」とか、評された竹田城よりもまだ奥深い備中松山城などに行ってきました。

備中松山城は天守閣が現存している城で日本一標高が高い場所に建っており、NHKの大河ドラマ「真田丸」(私は見ていませんが…)の撮影ロケ地ともなったそうです。

乗合タクシーが行き止まる駐車場から、更に20分ほど、登っていったところに、二層の天守閣が聳え立っていました！

なお、城主断絶のおり、城受取の浅野内匠頭の代理として大石内蔵助が城番としていたこともあったそうです。(忠臣蔵にも詳しくはありませんが…)

ところで、現在(7月下旬)、一支国博物館では、「生き物」をテーマに、特別企画展「イキものがたり」を開催中。どこかの音楽グループと間違えないよう、気をつけて。



「第38回九州地区公立学校事務長会研究協議会並び総会」を終えて

鹿町工業高等学校 富永 宏美

熊本地震の影響で一時は開催できるかどうかと心配しましたが、予定どおり6月1日から3日まで無事に開催することができ、8月には佐賀県への引継も終わることが出来ました。ただ、現在も、大会記録集となる「九州事務長会報」の編集作業に大変なご苦労をされている係もあり、発行後には九州各県や関係先に配布する仕事が残っています。

まだ、全ての業務が終了した状況ではありませんが、とりあえず県外から参加いただいた多くの皆さん方から「スムーズな運営で、素晴らしい大会でした。来て良かった。」という感想をいただけた大会を実施できたことは、会長の的確なリードの元、本県事務長会員の一人ひとりが、大会成功に向けて高い意識を持って、それぞれの役割を果たされた成果だと思います。「頼まれた仕事を断ることは、自分が成長できる機会を自分で絶つことになるから断らないこと。」という初任の頃の上司からの指導を肝に銘じて、今回の九州大会事務局の仕事も、自分の力量も弁えずに引き受けてしまいましたが、準備からこれまでを振り返ってみますと、行き届かない点ばかりで、県内外の多くの方々にとり迷惑をおかけしたと思います。また、実行委員会等で学校を留守にすることも多く、校長先生はじめ諸先生方、とりわけ事務室の皆さん方には、いろいろとご負担をおかけしてしまいました。多くの皆様方の、温かいご理解とご協力のおかげで、どうか役割を果たすことが出来たことを心から感謝しています。本当にありがとうございました。

事務長会等の業務を担当すると、仕事が増えて忙しくなりますが、やらないと経験できない出会いや感動を得ることが出来ます。昨年11月の九州地区公立学校事務長会理事会で、本県が提

案した大会要項案を承認していただき、「これまでは長崎県さんが準備をしていただきましたが、ここからは九州全県で大会に向けて準備をしていきましょう!」との言葉に九州事務長会の力強いまことまりを感じ感動しました。4月下旬に、熊本県から、「予定どおり実施して欲しい。力にもなるし元気にもなる。」という連絡を受けた時は、受話器を持ったまま立ち上がってしまいました。やる気が奮い立ち、遅れていた事務手続きを一気に片付けることが出来ました。そして、何よりも大会閉会后に、県内の事務長さん全員で、県外の参加者をお見送りする場面では心地よい達成感は味わうことができました。

この大会は今年で38回の歴史を刻みました。これまで、多くの諸先輩方の努力やご苦労と、九州各県の教育委員会や校長会等関係団体のご理解とご協力により大会のバトンが引き継がれ続けているのだと思います。「研究発表で、事務長会の取り組みを知ることができた。」「先輩事務長の熱い思いを感じる事ができた。」「他県の多くの方と情報交換ができてとても参考になった。」という多くの感想が得られるような有意義な時間が共有できる大会であると思います。最近、いろいろな事情から事務長会の活動が休会や縮小している県や市が増えてきているようです。九州事務長会活動を取り巻く環境も、苦しい財政事情や少子化等による職員定数の削減や任用制度の変化に伴う事務室組織の縮小化等大変厳しい状況です。しかし、これからは会員一人ひとりの力を結集して、その時々の時流に沿った形で、「参加して良かった。」「大会に携わって良かった。」という大会が続いていくことを願っています。



長崎東中学校・高等学校の将来に向けて

長崎県高等学校長協会 会長 前田 功
長崎県立長崎東高等学校 校長

長崎東中学校・高等学校は、現在本県をリードする学校としての確固たる位置づけを持っていると自負しています。それは、決して一朝一夕にできることではなく、私たち教職員の先輩が、長い歴史の中でお互いに切磋琢磨しながら創り上げてきたものだと思います。私はその歴史と伝統を受け継いで行きたいと切に願っています。

特に今本校は中高一貫教育校設立以来の大きな変革期を迎えています。今こそ、出口と入口の一体改革を進め、飛躍しなければなりません。つまり、出口とは、大学受験の実績であり、入口とはその実績と新たに設置された国際科、それから文部科学省から研究指定を受けたSGH(スーパーグローバルハイスクール)事業の魅力をアピールすることによる生徒募集の強化のことであります。この生徒募集の強化は高校のみならず、中学校も含めた募集のことであり、出口と入口の一体改革を進めれば、必ずや日本一の学校を目指すことができると確信しています。

そのために「中・高とも授業改善に全員で取り組んでいただきたい」ということを先生方にお願いました。一番大切なことは、先生方が高い指導力を身に付けることです。その指導力向上に全員で取り組んでいくために、今年度授業改善のワーキンググループを立ち上げ、アクティブラーニング(以下ALと表記)を推進していくこととしました。ただし、ALといってもただ単に全員で一斉にグループ学習をやりましょうということではありません。生徒の学力が向上するような長崎東中・高版AL型授業を模索していきましょう、ということなのです。

ALについては、近年、全国的にも急速に関心が高まってきており、全校的な実践を試みる学校も急速に増えてきています。このようにALが叫ばれる背景には、時代の急速な変化があると言われています。日本の社会はグローバル化や情報化、少子高齢化などが進んでおり、教育に求められるものが大きく変化しています。これからの日本には、新しい付加価値を産み出す創造力や、予測

困難な時代に対応する能力等が求められています。

したがって、従来の知識を詰め込む教育から脱却し、知識を使って新しい課題を発見し、それを解決できる能力を養うことが私たち教職員に課せられた新たな使命であると考えています。ALについては、ワーキンググループの中でこれまで何度も協議を行い、主に本校が目指すべきALのあり方について話し合ってきました。

そこで、授業改革の方向性を示したスローガンが「ともに学び、自ら深める、」というものでした。「生徒が協働しながら、主体的に学びを深めていく」ということを基本的な軸に据えながら、スローガンの最後は「、(読点+スペース)」のオープンエンドの形としました。ここには、生徒の主体的な「学び」が、空間的に授業や学校という枠の中にとどまることなく、さらには現在の学びが時間的に未来につながり、将来日本を支える創造性あふれる生徒を育成したいという私たちの思いを込めているのです。

また、ALを通して育む力は、現在検討が進む新しい大学入試制度にも対応できる学力の育成にもつながると考えています。さらに、大学進学後あるいは社会に出た後も、目標を持って大きく伸びていく人材を育てることにもつながると私たちは考えているのです。

長崎東中・高版のAL型授業は、まだ旗を掲げたばかりであり、本校の職員一人一人が試行錯誤を繰り返している最中です。今後ともその実践に取り組んでいき、新たな長崎東中学校・高等学校を創っていきたいと考えています。



編集後記

前号のこの欄に1月の大雪のことを記しましたが、その後、4月には大地震に見舞われ、そしてこの夏は例年になく厳しい暑さが続きました。長い間、雨も降らず、学校閉庁日が終わって気が付くといつのまにか学校の玄関周辺に植栽してあるツツジの葉が茶色になって枯れ始めていました。慌てて水やりを行いました。時間はかかるしホースが届かないところもあり、思った以上に大変な労力を費やし、今年の異常な天候を実感しました。私たちは自然に対してなんと無力なことでしょう。この先もこのような自然現象と共存し、時には抗いながら暮らしていかなければなりません。多くの人命や財産を一瞬に奪う災害だけは未然に防ぎたいものです。

今回、前田校長先生をはじめ、副会長様、今年度で退職される方、新任の方々に加え、特別に九州地区公立学校事務長会長崎大会において事務局長を務められた富永事務長様に大会を振り返っての執筆をお願いしましたところ快くお引き受けいただきまして心より感謝申し上げます。(F.M)

